

石高神社

第3号

石高神社の御祭神

御祭神 大己貴命（おおなむちのみこと）

須勢理姫命（すせりひめのみこと）

配 祀 仲哀（ちゅうあい）天皇

神功（じんぐう）皇后

応仁（おうじん）天皇

石高神社は、出雲の神と八幡神を合わせてお祀りしています。

大己貴命は、出雲神話の主役であり、別名もたくさんありますが、神話の「因幡の白兔」に登場する大国主命として有名です。「国引き神話」に表されているように国土の開拓と経営にあたった英雄神であり、「国譲り神話」の天孫降臨にあたっては、国土を天津神に奉還した国津神の代表でもあります。また、仏教の守護神と習合して、七福神のひとつである大黒さまとしても知られています。美男の誉れ高く、多くの女性にもてたようすが、須佐之男命の娘の須勢理姫命を正妻にしています。

仲哀天皇は、第十四代の天皇で神功皇后と共に熊そ平定に出向きましたが、負傷して亡くなりました。その

遺志を受け継いだ皇后は、難なく熊そを平定し、さらに新羅へ進攻し、勝利をおさめました。凱旋直後、九州の筑紫で男子をお生みになりました。これが第十五代応仁天皇です。応仁天皇は、大陸から新たな文学・産業などの文化を取り入れた大和朝廷きっての文化人指導者でした。

応仁天皇を主座に比売（ひめ）神・仲哀天皇・神功皇后などを祀る神社は八幡宮と称し、九州の宇佐八幡宮を祖として全神社の三分の一を占めています。宇佐八幡は、国家鎮護・仏教守護の神として「八幡大菩薩」と呼ばれる日本最初の神仏習合神になりました。平安後期以後、武家勢力の発展と共に武神として広く信仰を集め、全国に祀られるようになりました。

石高神社も八幡宮と称した時期がありました。



昭和 六十二年 九月十五日 発行
発行者 宮司 高原 章兆

第一号で輪くぐりについて説明しましたが、ひきつづき行事について説明を加えていきたいと思ひます。今回は「七五三」を取り上げました。

十一月十五日に女七歳・男五歳・男女三歳の子供が着飾って氏神様に参拝する習わしがありますが、これは昔の髪置き・袴着・紐落としなどの祝いから起こったことです。子供は生まれると髪を剃って短くしていましたが、やや成長すると髪を伸ばします。この祝いの儀式が髪置きで鎌倉時代から始まっています。袴着は初めて袴を着ける祝いで、平安時代にはすでに行なわれています。幼いうちは着物に付け紐をしますが、やや成長すると帯を用いはじめます。その時の祝いが紐落として、室町時代には行なわれていたようです。

これらの祝いを行なう月日は一定していなかったのですが、庶民では江戸末期から十一月十五日になり、名称も明治以降総称して「七五三」と呼ぶようになりました。この辺では「ひもーとし」と呼んでいます。

大人の厄年同様、子供の三・五・七歳は、それぞれ子供が発育していく過程でのヤマと考えられます。この時期に健全な成長を神様に祈ることは、自然な親心から起ったものと考えられます。また、髪を伸ばし服装を変え、ることにより子供の気持ちを改め、大人へと一歩近づき、

社会の一員として認められ祝福を受けるという意味も含んでいました。

末社社初和介 ③ 木野山神社

高梁市の木野山山頂に奥宮があり、山麓の里宮と共に遠辺の人々の崇敬を集めている。

天曆九年（九九五年）創建の古社で大山祇命、豊玉彦命、大己貴命を祀っており、諸願に靈驗著しく、特に流行病・精神病に関して特別の信仰があり、「木野山さま」として親しまれている。

拜殿に向かって左手、社務所のすぐ北側に鎮座し、末社参拝の一番めになっている。

後 記

暑かった夏も終わり、さわやかな秋空がひろがり、祭りの季節がやってきました。祭りのように大勢のひとが境内に来られる時にいつも心配なのは、老朽化した建物や石造物が多い事です。特に子供達には、石垣にあがったり、危険なことをしないように注意をお願いします。

石高神社をより多く知っていただく為に社報を作っています。まだ試行錯誤の状態で、十分な内容にはなっておりませんが、なにとぞご愛読をお願い致します。